

会 議 録
-------

会 議 の 名 称	第2回 枚方市文化芸術振興審議会
開 催 日 時	令和5年10月19日（水曜日） 午後1時30分から 午後3時45分まで
開 催 場 所	サンプラザ生涯学習市民センター 第3集会室
出 席 者	委員10名中9名出席 会長：林 伸光委員、副会長：佐藤 友美子委員、 委員：阪本 龍夫委員、佐藤 亜友美委員、田中 恵美委員、谷本 雅洋委員、 寺前 幸児委員、所 めぐみ委員、吉富 聡委員
欠 席 者	小川 知子委員
案 件 名	1. 案件 （1）令和4年度における枚方市文化芸術振興計画の進捗状況について （2）枚方市文化芸術振興計画の一部見直しについて 2. その他 （1）今後のスケジュールについて （2）その他
提出された資料等の 名 称	・資料1 枚方市文化芸術振興計画の進捗状況〔令和4年度分 総括〕 ・資料2-1 アンケート調査結果報告(市政モニター) ・資料2-2 アンケート調査結果報告(小学生) ・資料3 枚方市文化芸術振興計画 第1期改訂版(案) ・資料4 今後のスケジュール（予定） ・参考資料① 枚方市文化芸術振興条例 ・参考資料② 枚方市文化芸術振興計画（平成29年3月）
決 定 事 項	枚方市文化芸術振興計画の進捗状況を確認した 枚方市文化芸術振興計画の第1期改訂版の素案を確認した
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	なし
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	観光にぎわい部 文化生涯学習課

## 審 議 内 容

### 1. 開会

会 長:ただいまから、令和5年度第2回枚方市文化芸術振興審議会を始めさせていただきます。最初に、本日の審議会の出席委員と傍聴者についての報告と、資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局:委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の出席委員でございますが、10名中9名の出席をいただいております。枚方市附属機関条例第5条第2項に規定する「2分の1以上の出席」を満たしており、この審議会の会議が成立していることをご報告いたします。また、本日の一般傍聴者でございますが、傍聴の受付はございませんでしたのでご報告いたします。次に本日配布させていただいております資料の確認をさせていただきます。次第、続きまして、資料1～資料4及び参考資料1～参考資料2の以上8点でございます。資料に過不足はございませんでしょうか。

(資料の不足等なし)

### 2. 案件

会 長:それでは議事案件に入りたいと思います。「案件(1)令和4年度における枚方市文化芸術振興計画の進捗状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局:～「案件(1)令和4年度における枚方市文化芸術振興計画の進捗状況について」説明～

会 長:具体的な事業についてでもよいのですが、何かご意見等ある方はいらっしゃいますか。今回出していた意見は来年度以降反映できる意見となります。ご意見のある方は挙手をお願いします。

委 員:この報告を見ていて思うのは、〇〇しました、という報告になっており、施策としての目的は理解できますが、それぞれの事業、イベントごとに目的、流行の言葉で言うとKPIという目標値をどこにおいて、それを達成した、達成していないという現場側の結果や評価がわかりません。繁盛していたのか、物足りなかったのか。イベントの目的や終わった時の感想が開催している人にはそれぞれあると思うので、それをこの施策の中で汲み取って、次回実施するときにフォローできるようにしたほうがよいと思います。参加人数にしても、定員に対して何人集まったのかがわからないと成功したかどうかかわからないので、できればそのように記載していただいた方がよいのかなと思います。

続けるという意味では、やっている人が成功したとっていないと続いていけないので、開催するときは仮でも目標というイメージを持っていると思います。事務局側の感想でもよいので、成功したことがわかれば頑張っている感が伝わってきますし、失敗しているのであれば審議会でアドバイスができると思います。別表で後ろにExcelの表でよかったところ、よくなかったところ、簡単なコメントがあれば、この報告書よりも臨場感が伝わってくるのではないかと思います。

事務局:次回検討させていただきます。

会長：項目を立てるのは難しい作業かと思います。個々の事業のPDCAを書く、どう実施して、どう評価して、どう見直して、どう次の事業に活かすのか、それがもう少し見える形、全てを書くのはこれだけの資料なので難しいと思いますが、今後の課題で一括りにされているのが、もう少し見えたらいいと思います。

副会長：私も同じことを思っていて、何ができて何ができなかったかがわからないと次に生きてこないです。できたこと、できなかったことをメリハリをつけて書かないと問題が見えてこないと思います。進めていくためにはそういう視点が必要ではないかと思います。

事務局：今まで実施できていなかったことを、総合文化芸術センターがオープンして実施し始めた事業について、今後どのように発展させていくのかという次の段階に進んでいると思います。いただいたご意見を踏まえ、資料のあり方を検討し、来年度の報告時にしっかりお伝えできればと思います。

会長：総合文化芸術センターの事業については、開館して2年目の報告なので、今後、今の盛況を維持していくためには、やったことの内容だけではなく、色んなものが見える形にしないといけないですね。例えば資料（1）3ページにある中学校オーケストラの鑑賞事業はすぐく運営方針としてはいい形で実施できていると思いますし、全国規模からみてもこれだけのことをやっている自治体はほとんどなく、全国的にもとても優れた事業になります。こういったことが個々の事業でも見えてくるといいと思います。核としてはこういうものを次の段階としてPDCAが見える形で報告いただけるよう考えていただきたいと思います。

委員：この進捗状況の報告は表に出るものですか。

事務局：審議会の資料として議事録と共に市のホームページに公開させていただいています。

委員：ホームページに公開されるのであれば、令和4年度にこれだけやったという実績を、例えば子どもたちが活動している写真などをホームページで見れたら雰囲気が伝わるとと思います。市民の方がホームページを見られて、枚方市はこういうことをしているのだなということが、写真1枚あれば文章で説明しなくてもわかりやすいので、この報告に写真を付けていただく形で報告してもらえたらわかりやすいと思います。

事務局：写真の掲載についても検討したいと思います。

委員：資料（1）13ページの①総合文化芸術センター情報誌ハーツは紙媒体だけなのでしょうか。

事務局：総合文化芸術センターのホームページに掲載しています。また、市内の公共施設や当課にも置かせていただいています。

委員：設置場所に行けばあるとは思いますが、市民は生活する中で、行きたいコンサートや使いたい施設でない限り、自分からアクセスするというのはあまりしません。色んな事業をされているというのを知らない方がかなりいるのではないかと思います。先ほど会長からもありましたが、全国的にもほと

んど例の無い中学校の鑑賞会をやっているということを今初めて知りました。これが市民に届いていないのはもったいないと思います。せっかく枚方市の公式 LINE があって、多くの方が登録していると思うので、活用していただけたらと思います。

委員：ハーツの発行は毎月ですか

事務局：年4回程度の発行です。

事務局：イベント実施の告知ばかりになってしまっているの、終わってからの報告と情報誌をインターネットや SNS で見ていただけるような環境づくりを検討させていただきます。

副会長：例えば、観客がどのくらい来ているかなど、盛り上がり伝わってきません。盛り上がっていることは、市民の皆さんがとっても楽しいところにいるんだなと思えるきっかけになるのに、これではわかりません。そこを今後どのように作っていくのかが、市民と一緒に、地域と一緒にというところにもつながっていくと思います。その転換の時期に来ているのではないのでしょうか。

委員：枚方市の LINE は、私も登録しているのですが、文化事業だけの LINE を作ってはどうか。市の公式とは別に作って、興味ある人だけがフォローして、情報が入ってくるようにすれば、枚方市の他の事業告知とは別に文化だけを見るきっかけにはなると思います。

委員：資料（1）の1ページ、市民文化祭のアラカルトが新設されたとありますが、これはどのような人が出演したのでしょうか。

事務局：既存のジャンルに属さない、機材や舞台設営が必要でないものが対象です。今年度はフラダンスやハンドベル、手品や漫才もされていました。

委員：応募は多いのでしょうか。

事務局：令和4年度は応募された方全員が出演できましたが、今年度は新規の申込もあり、抽選で落選された団体もありました。

委員：今後も引き続き検討されているのですか。

事務局：要望はありますので、施設のキャパシティや募集の仕方も含めて検討させていただきます。

委員：市民総合文化祭は、市民の方を巻き込んで運営した方がよいのではないですか。

事務局：現在は、指定管理者が中心となって運営しており、市民の方を巻き込みながら運営していくのは、一定課題の部分でもあります。今は軌道に乗せるので精いっぱい、色々ご意見も頂戴しながら、何とか進めている状況です。まずは軌道に乗せることが先決かなと思っています。

会 長：とりあえずやっっていく中で先行きが見える流れかなということですね。

委 員：大阪府の芸文連、総合文化祭の私学の文化祭の副会長をやりましたが、おっしゃったとおり既存団体と力を併せて軌道に乗せていくと、昔のことを知っている人がやると過去の色んなものに引っ張られてしまうという傾向があります。若い血を入れていくように団体の上に実行委員会といったものを考えていただけたら新しく活性化すると思います。

委 員：事業者を巻き込んではどうでしょうか。協賛的なかわり方はできないですか。大学の学祭のパンフレットや地図のように、例えば会社の名前を載せるなど、事業者が協力できる仕組みというのは難しいのでしょうか。

副会長：同じことを思いました。大学とは連携は出来ているみたいですが、事業者とは枚方ファンクラブのような形でいろんなお店の方にチラシをまいてもらったり、会費を払うのではなく、手伝ってもらえるような仕組みづくり、仲間意識をもってやっっていくことが大事で、そういう段階にきているのではないのでしょうか。お金をもらうのは皆さん抵抗があるとは思っているので、せめてチラシで協力してもらえようような仕組みづくりを考えていただけたら。例えば商工会議所を巻き込んで、みんなで応援している感が出ると市民の方もいいなと思ってもらえると思います。

事務局：例えば先ほど意見のあったハーツは生涯学習市民センターの他、枚方 T-SITE や、一部の協力いただいているお店には置いてもらっています。総合文化芸術センター事業の半券を提示するとサービスがあるような取り組みもさせていただいています。それぞれの事業のチラシを置くのは難しいですが、ハーツからでも進めていってもらえるような環境づくりを商工会議所にも協力を仰ぎながら進めていきたいと思っています。

会 長：私が関わっている兵庫県下の5万人くらいの町は、風呂屋やスーパーマーケットにポスターが貼ってあり、それだけで大きな効果があります。40万都市とは規模が違うとは思いますが、ハーツの設置くらいから始まっていけばいいと思います。

副会長：金沢の二十一世紀美術館では地域みんなでポスターなどを貼って、地域みんなで盛り上がっているというのがあります。そういう一歩を考えてみてはどうでしょうか。

案件（2）枚方市文化芸術振興計画の一部見直しについて

会 長：案件2枚方市文化芸術振興計画について前回意見が出たところを中心に事務局から説明をお願いします。

施策の柱 I-④について

事務局：資料（3）に基づき説明

事務局：前回の宿題で、障害者という言葉の言い替えを考えましたが、「一定の配慮が必要な方」という言葉しか事務局では思いつきませんでした。状況について説明した方がよいというご意見もいただいたので、本文中に反映させ、タイトル部分はこのままでいかせていただけたらと考えています。

副会長：全ての人はどうでしょうか。

事務局：施策の柱Ⅰ-①「市民の芸術活動の機会の充実」が全ての人を対象としています。ここではさらに特化した、子どもや若い世代、一定の配慮が必要な方といった各論の部分になります。こういった配慮が必要な人が文化芸術活動を行えるよう環境等を整備するといった条例の内容からも外れることになってしまいます。

委員：本文のところで、「障害者や高齢者、子育て中の保護者など」という言葉が必要なくなったのではないかと感じます。例えば「市民の中には、障害・年齢・家庭の状況などの理由により」でいいのではないのでしょうか。2回繰り返すことであえて念押ししているように感じます。

委員：前回発言した趣旨としては、人ではなく、状況で書いた方がいいのかな、ということだったので、確かに状況の前の部分はいらないと思います。あと、上では障害・年齢になっており、取り組みの方向性のところで、年齢・障害となっているので、順番は揃えた方がいいと思います。

事務局：いただきましたご意見のとおり、修正いたします。

会長：意見を総合すると、書き出しの「障害者や高齢者、子育て中の保護者など」というのは後述と重複するので、「障害・年齢・家庭の状況など」から文章を始めるということですね。

事務局：文章の始まりを「障害・年齢・家庭の状況などの理由により」として、取り組みの方向性も同じように修正させていただきます。タイトルもこれでよければこのままでいかせていただきます。主な取り組みのところも、人になっているので、状況に変えさせていただきます。

会長：そういうことでよろしいですか。

(異議なし)

施策の柱Ⅰ-⑤

事務局：資料(3)に基づき説明

副会長：これですっきりするのではないのでしょうか。

会長：観光のために文化振興があるのではないので。

委員：最初のところで、「市民の国際文化理解や観光の推進」にした方がよいのではないですか。

事務局：そのように修正します。以下、取り組みの方向性なども同じように修正いたします。

施策の柱Ⅱ-①

事務局：資料3に基づき説明

会 長：ここでいう「振興」というのは、どちらかというところ穴を掘る作業で、発信は横に広げる作業であるということですね。だからこれは並列で書かれるべきなので、これでよいかと思いますが、どうでしょうか。

事務局：具体的な発信については施策の柱Ⅲ-④で説明していますので、ここでは、全体のところで柱Ⅱでも書いているので、どこかに書いておくべきではないかという指摘があったので変更したものです。裾野を広げることが文化芸術のさらなる振興につながり、それが市として文化芸術の発信にもつながるだろうということで、庁内でも議論がかなりあったのですが、事務局としてはここに発信という言葉を入れることで落ち着きました。

#### 施策の柱Ⅱ-②

事務局：資料3に基づき説明

事務局：施策の柱Ⅰ-⑤と同様で、文化と観光どちらが大事なのか、というところで、この計画としては文化だろうということで文章を変更させていただきました。

会 長：これでいいと思います。

#### 施策の柱Ⅱ-④、施策の柱Ⅲ-①

資料3に基づき説明

会 長：両方とも前の会議の内容をふまえた修正ですか。

事務局：事務局としては条例と文言を揃えていたのですが、計画とは別でもよいという整理をさせていただきました。

#### 施策の柱Ⅲ-③

資料3に基づき説明

副会長：市民参加型事業を削除してしまうと、意味を狭めてしまうことにならないですか。

事務局：計画策定時は、市民にチケットのもぎりをさせていただくことなどを想定していましたが、施設を運営していく中でそれは困難であることがわかり、計画見直しに当たり実態に即した表現にするということで、市民参加型の事業に対して色々お手伝いしていただいているので、表現を改めてこの書き方になりました。

副会長：すごく狭まってしまって、それができない感じになっているので、広く様々な文化事業におけるサポーターの育成というのはさっきの企業の方に協力いただいたらいいのという話にもつながります。今の事業に合わせる必要はあるのでしょうか。もっと高みを目指してもよいのではないかと思います。

事務局：市民参加型事業を取って、「前の文化芸術事業におけるサポーターの育成」、でどうですか。

副会長：「市民サポーター」がわからないので、文化芸術事業全体について、という風にした方がよりいろんな方に参加してもらえenと思います。

事務局：庁内でも「運営サポーター」といった役職があるという誤解を招くということで、最終的に「サポーター」に落ち着いた経緯があります。

副会長：メッセージ性があいまいになります。地域や市民の人にも入ってほしいというメッセージをどう入れるかを考える必要があると思います。

委員：「市民」と入れるとイメージはつながるのかなと思います。

委員：「サポーター」と言ってしまうと何か固有のものがあるという風にとられるとおっしゃったので、サポーターを取って、文化芸術活動を支援する「市民」の育成ではどうでしょうか。

事務局：「市民等」にさせていただいてもよいでしょうか。企業の方や、事業者の方も含めて幅広くという意味合いを込めたいと思います。

会長：ではそういう形でお願いします。

#### 第5章以降

事務局：資料（3）に基づき事務局から説明

委員：名簿は何月何日現在を予定しているのですか。

事務局：答申の出る日になります。令和6年3月中の日を予定しています。

#### アンケート結果について

資料2-1及び資料2-2に基づき事務局より説明

会長：このアンケートは今回の計画に記載されますか。

事務局：参考資料として、今回示したデータを元に現在の枚方市の文化芸術に対する意識として載せようと考えています。

会長：改めて皆様方に振興計画全体に対して、それぞれの立場から一言ずつご発言いただけたらと思います。

委員：枚方市の中学校で演劇部は1校だけという現状を踏まえて、小学校、中学校、高校の音楽はやりやすいですが、鑑賞行事として、交流できる場が作れたらいいなと思っています。小学校、中学校でや



っている相互交流ですね。それを今後のところで、将来的にできたらな、と思っています。

委員：5、6年生のアンケートは、アウトリーチを実施前ですか。実施後ですか。

事務局：アウトリーチの後に実施しました。

委員：アウトリーチを観た後なのであれば、どのような分野を鑑賞したいと思いますか、で「特に鑑賞したいと思わない」が95件あることがショックでした。私もアウトリーチに行かせていただいて、子どもたちがこれをきっかけに芸術センターに足を運んでもらい、もっと聴いてみたいと思ってもらわないといけないと思いました。大人向けのアンケートも20代の方は施設に満足していないと書いていたり、興味のある催しが少ないという回答がたくさんあったので、私たちアーティストがもっと子育て世代や高齢者世代にも興味を持ってもらえるためには、「いいものだよ」というのを発信していかないといけないなと改めて思いました。

委員：10代、20代、これから枚方市で育って、この町に居続けたいと考える世代でもあるので、長く住む世代にどれだけ楽しんでもらえるのかというところで、情報の伝え方というポイントが大きいです。後は興味のあるコンテンツが何なのか。さっきのアンケートの音楽、演劇、映画といった子供の声なども、正直な意見だと思いますし、それを少しずつ取り入れて、行くきっかけが大切なのかなと思います。最初の進捗状況のところ、子どもや若い世代の文化芸術世代の機会の充実が音楽関係が多いです。文化芸術という中には、美術であったり創作物であったり映像であったりというのが自分の中で大きくあり、映画や動画は子供たちにも関心が高いので、音楽やクラシックも大事ですが、新しい分野や、映像、絵画といった美術の分野も増えていけば総合的な関心に興味を抱けるのではないかなと思いました。

委員：事業者にも文化芸術をもっとという話がありましたが、チラシ・ポスターを貼ってほしいという依頼も実は結構あって、できる範囲でお断りせずにやっています。ただ商工会議所という属性から言いますと、少し分野が違うことになってきますので、すべてを受け入れることは難しいです。協賛金の集金など頻繁にあるので、正直勘弁してほしいという話もあります。みんなに知ってもらったり、親しくしてもらったりというために告知をするという協力であればやりやすいと思いますので、また言っただけならと思います。先日も違う団体ですが、ライオンズクラブさんが大阪フィルのチャリティーコンサートをされたり、来週から枚方信用金庫さんがたけうちひろ展をされたりとか。我々も呼んでいただいて参加はしていますので、事業者の中での意識の高まりを総合文化芸術センターが完成してからは特に感じていますので、そういうのが好きな社長さんがいれば会社の掲示板にポスターを貼ったりしています。そういう協力はできると思いますので、よろしくお願いいたします。

委員：小学校の校長として、子どもたちに生の文化芸術を見せてもらったり、6月にはすべての小学校で合唱会に参加させていただいたり、子どものうちからそういった経験を積むというのが大事だと思います。子どもの時に生で音楽を聴いたり、総合文化芸術センターの舞台に立つということのが、大人になって携わってみようとか行ってみようということになると思うので、コロナで3年間お休みしていた分、これからどんどん子どもたちが芸術センターの方に足を運んでいくようになればいいなと思いますので、未来に対して枚方市が芸術の街としてたくさん芸術に触れるように子どもたちが成長して

いってくれたらいいなと思いました。

委員：計画はもともと、どのような街を目指すかというところで、3本の施策柱を立てて策定されていて、それぞれの柱で具体的な街づくりというところを設定されています。今日の議論にも出てきましたが、「何をやったか」だけではなく、「どういう街になりつつある」ということを、全部調べるのは難しいと思いますが、見えてきているものについては、数だけではなく、質的な表現になるかもしれないですが、見せれるといいなと思いました。今日もご意見がありました動きが見えるというか、そういうようなところを評価する工夫が出来たらいいかなと思います。例えば、情報発信についても、お知らせで通知していたところを、「やった」という固い言葉でいうと評価かもしれませんが、もっと柔らかく、どういう風にその事業に関わった人がその場で「見た」、「聞いた」、「味わった」のかということ、その場にいなかった人にも分かち合えるようになると、街として動き出すのかなと思います。そうしたら情報発信の仕方や中身を評価するときに、こういうところを見ていこうとか、こういう見方をしてみようか、みたいなことが実験的でも取り入れていけるといいのかなと思いました。

委員：アンケートの結果の20代のところで、コロナのこともありますが、事業に関わる中で20代以下は完全にデジタルネイティブで、デジタルから頭に入っていきます。私たちみたいなリアル人間が同じ発想で考えても合わないんですね。2歳からスマホを触る時代なので、リアルの良さを伝えるのだったら、若い人に対しては入口をデジタルにする必要があります。これは行政が一番苦手だとは思いますが、大手販売店もネット広告、ネット販売が中心。ネットオリジナルはあっても、特別なことが無い限り店舗限定は無い。その文化が浸透していく中で言うと、デジタルという分野に市全体がデジタルのマーケティングしかり情報発信しかり、発信の仕方の発想を入れていかないといけないです。今では、音楽の創作自体もデジタルで、音楽経験のない楽譜を読めない人間が音楽創作をしてやっている時代で、私たちとは全然世代が違うので、そういうプロの人たちをアドバイザーに入れて、こういうことをしていきたいという今のアナログ的な世界をどうやっていくかというのを外部の人を巻き込むくらいの動きをしていかないといけないと難しいんだろうなと思います。

今の子どもたちは時間が無いんですね。塾やら習い事で本当に時間が無い中で、その生活の中にどう切り込んでいくか。隙間時間にどう彼らをキャッチアップしていくかというのが重要になってきていると思います。小学校の授業でiPadが当たり前になり、若い先生たちは切り替えられますが、そうじゃない先生たちはパワーポイントの資料作りから大変だという時代になっています。

副会長：総合文化芸術センターができて随分変わってきていると思っています。広報にしても若い有名な人にインフルエンサーになってもらうよう何人か指名して入ってもらう、発信してもらうというのをしとけないと届かないです。若い人たちはそれを推しにしたりして頑張っているんですね。どうやって切り替えて行政の方法と違う形にしていくのが、これから求められていることだと思います。売り込んでいかないと、せっかくいいものを持っていても届かないので、データも示していけないと届かないんじゃないかなと思います。

全然違う話なんですけど、アウトリーチをされるときにその人の言葉でしゃべっていく。音楽を聞かせるだけではなく、なぜその人が今そこにいるのかとか、今まで何をやってきたのか、というのを作品だけを見てもなかなかつながらないと思うんですよ。その人のなりのものが見えてくると、応援したくなります。アクセスポイントを作っていくか、という視点でいくと市の範囲でもできることがいっぱい

いあるんじゃないかなと思います。いろんなファンを作っていきたいなと思いました。

会 長：条例から基づく計画があって、その見直しということで、その間に着実に市民の方の関心も進んできているのかなと思います。この場でいただいている意見も進化していると思います。先ほども出ましたが、具体的な計画の実施状況に関しては成果報告としてしか見えていません。文化芸術センターは初動の段階なので、ここで様々ないい成果が出ていて、具体的に言うと、中学生の鑑賞事業も全国的に誇れる事例です。市民総合文化祭の取り組みも旧市民会館の時とは全然違う形で、当時はそれぞれが点と点になっていたのが、枚方市民が総合的にどんなものを行っているのが見えていなかったが、市民総合文化祭ができることでよりよく変わってきたと思います。

あらゆる世代と言いながら 20 代の人たちというのはなかなかいいですね。ここを厚くしていくのが利用率を上げていくことにもなります。我々の世代からは難しいところですが、それをどうするのかが大きな課題となります。

総合文化芸術センターだけには限らないですが、文化芸術の力はシビックプライドの核になる、具体化してきていると思うので、見える形で示していきながら発展していけばいいなと思いました。

## **案件 2 その他**

(1) 今後のスケジュールについて

事務局：資料 5 に基づき説明

会 長：これもちまして第 2 回枚方市文化芸術振興審議会を閉会いたします。